

平成28年11月26日

「東南アジア青年の船」シンガポール同窓会組織
(SSEAYPインターナショナル・シンガポール(SIS))
に対する外務大臣表彰

11月26日～29日に、「東南アジア青年の船(SSEAYP)」事業の日本丸が3年ぶりにシンガポールに寄港します。この機にあわせ、11月26日、日本政府は、「東南アジア青年の船」シンガポール同窓会組織(SSEAYPインターナショナル・シンガポール(SIS))に、外務大臣表彰を授与致しました。この表彰は、同組織が長年にわたり「東南アジア青年の船」事業への協力及び日本文化紹介事業を通じて、日本とシンガポールとの友好関係促進に多大な貢献をしてきたことを顕彰するものです。

1979年、SISの前身のSAS(SSEAYP Alumni Singapore)が国家青年調整委員会(NYCC)の下に設立されました。1987年、「東南アジア青年の船」のASEAN各国や日本の同窓会組織が連合体としてのSSEAYPインターナショナルの設立を決定しました(SISはSSEAYPインターナショナルのメンバーの1つとなりました)。SISはシンガポールに「東南アジア青年の船」が寄港する際には、寄港地での活動に積極的な役割を果たしてきました。具体的には、運営補助として、寄港地活動のアレンジ、ホームステイ受け入れ、歓迎レセプション等を行ってきました。また、日頃の草の根活動として、国内外各地での社会貢献活動に参加協力を行ってきました。

外務大臣表彰は、我が国と諸外国との友好、親善関係の増進に大きな役割を果たしている個人または団体に対し、その功績をたたえるためのものです。昭和59年にこの表彰が開始されて以来、この外務大臣表彰を受けたシンガポール関係者・団体は今回のSISを含む計17個人・団体です。

「東南アジア青年の船」シンガポール同窓会組織 (SSEAYP International Singapore (SIS)) について

1979年、SISの前身のSAS (SSEAYP Alumni Singapore) が国家青年調整委員会 (NYCC) の下に設立。1987年、「東南アジア青年の船」のASEAN各国や日本の同窓会組織が連合体としてのSSEAYPインターナショナルの設立を決定。SISも含むすべてのASEANと日本の同窓会組織がSSEAYPインターナショナルのメンバーとなった。

SISの目的は、東南アジア青年の船の参加者間の交流を促進し、他のASEANや日本の同窓会組織や青年組織との連絡調整、ASEANと日本の若者の友好や相互理解を促進する交流プログラムの調整等である。

SISはシンガポールに「東南アジア青年の船」が寄港する際には、寄港地での活動に積極的な役割を果たしてきた。具体的には、「東南アジア青年の船」事業の運営補助として、寄港地活動のアレンジ、ホームステイ受け入れ、歓迎レセプション等を行ってきた。1996年以降は、毎年、ナショナルリーダー（参加者の取りまとめ役）として同窓生を送り出している。また、日頃の草の根活動として、国内外各地での社会貢献活動に参加協力を行ってきた。

2013年11月28日、SISはシンガポールの協会登録局に登録される団体となった。

(参考) 「東南アジア青年の船 : Ship for Southeast Asian and Japanese Youth Program (略称SSEAYP (セアアップ)) 」

日本政府が1974年以後毎年実施している、日本とASEAN諸国との青年国際交流事業。毎年10～12月に実施し、本年第43回目を迎える。

日本と東南アジア10か国の青年(300人以上)が、「東南アジア青年の船」に乗船し生活を共にする中で、各国事情の紹介や討論を行うとともに、船内及び訪問国において各種交流活動を行う。これにより、相互の友好と理解を促進し、あわせて日本の青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力における実践力の向上を図る。これをもって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる青年を育成する。また、青年による社会貢献活動に寄与する。

なお、シンガポールはSSEAYP開始時からの参加国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ)の一つ。シンガポールでの受入機関は全国青年評議会(National Youth Council, NYC)。2013年以来3年ぶりに、本年11月26日～29日に「東南アジア青年の船(日本丸)」がシンガポールに寄港する。